



私の好きな風景

7

スケッチ画と文

富士市美術協会

久保田明宏さん

富士市伝法九九五—二

浮島沼



「一面に広がる枯れアシの、寒々とした原野に潜む、新しい生命への力強い息吹。流れるともなくよどむともなく、大地を潤し湿原を形成し、その腕(かいな)に生命をはぐくむ、白く光る水。」

すべてが希望でありたい」

これは以前、県教育委員会から制作依頼のあった「静岡の美」の作品「浅春の浮き島沼」に添えた文章である。

私は制作依頼があると、浮島沼を題材に選ぶことが多い。何度も取材に行くが、そのたびに違う顔がそこにある。時の流れが、確実にこの地にもある。物心がついたころから、既にここが私の遊びのフィールドテリトリーだった。とにかくよく遊んだ。泥靴を洗う母親の後ろ姿とともに、思い出がよみがえる。

今、私の絵画制作に及ぼす感性の大部分は、この大地のぬくもりであるような気がする。風も雲も何げない瞬間が感性の残像となつて、イメージが形となりつくられてゆく。

私もここで生まれ、はぐくまれた一人である。

こちら編集室

沖縄へ行ってきた。青い空、青い海、白い砂浜・・・といきたいところだが、台風の接近と重なりあいにくのお天気。それでもしっかきスキューバダイビングで、星の砂とサンゴ礁で有名な石垣島近海の美しさを堪能してきた。

一方、市内観光で行った“ひめゆりの塔”資料館では、戦時中の多くの女子高生の悲惨な死を目の当たりにし、思わず絶句。沖縄の美しく華やかな一面だけでなく、悲しい歴史の一端をまかいて見えて有意義な旅となった。

ほっこり日の中でとろける里芋の煮つけ。しゅんの素材を生かしたしゅんの味に、同行したスタッフ一同で感激しきり。ここは、中里の宇佐八幡宮。お日待の取材にやってきて、夜の直会用に準備された、煮豆やなます、

里芋の煮つけをいただいたのです。逸品の里芋は、何でも掘りたては水っぽくなるからと、一日外で日に当ててから料理をするとか。こんな細やかな心遣いが大切なんですね。もてなして。何度あってもいい、おいしい取材でした。

広報ふじは環境にやさしい再生紙を使っています

| | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 発行・富士市役所 富士市永田町1丁目100番地 電話51-0123 | 人口 230,762人 男 115,183人 女 115,579人 |
| 編集・総務部広報広聴課 | 世帯数 71,707世帯 (10月1日現在) |